



主 内容

- 1~3……「発達障害」がある子どもたちへの支援に向けて～発達障害の特徴や支援の取組みなどをご紹介します～
- 4……年金通信、国津の杜の行事、行政相談

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp



4月から保健師や保育士、教員などが保育所(園)、幼稚園、小学校を訪問。個々の子どもの特性や必要とされる対応などを話し合う体制を築いている。

## 「発達障害」がある子どもたちへの支援に向けて

「じつまでも落ち着きがない」「友達とのトラブルが多い」「コミュニケーションがうまくとれない」など、育てにくさが強く感じられる子どももいます。「そういう性格だ」「しつけが悪いからだ」と思われがちですが、その原因として、脳の機能などがうまく働かない場合があります。

これは、「発達障害」と呼ばれていて、性格や子育ての仕方によるものではありません。改

善に向けて必要とされているのは、早期からの適切な支援や周囲の理解ある対応です。

市では、4月に、子ども発達支援室を設置し、関係機関との連携を強化。また、市立病院に「小児発達支援外来」を開設するなど、発達障害がある子どもたちへの専門的・総合的な支援を目指しています。

☎子ども発達支援室 ☎62-1088



### 見た目では分かりにくい障害

発達障害は、障害かどうかを判断することが難しく、見た目では分かりにくい障害です。周囲はもちろん、保護者や本人でさえも気が付かないことがあります。

「落ち着きがない」「トラブルが多い」などの子どもの行動が発達障害によるものであったとしても、親が、「子どものわがままで」「もっと厳しくしつけなければ」と考えてしまうこともあるようで、児童虐待につながることもあります。また、周囲の人が、「親のしつけが悪いからだ」と親を一方的に非難してしまうこともあります。

一方、本人は、ふざけているわけでも、悪意があるわけでもないので、叱られることが多くなると「自分ではできない子だ」と劣等感を持ち、勉強嫌いや不登校になることもあるのです。

こうした子どもの中には、保育所(園)や幼稚園、小学校などの集団に入ると、さまざまな問題や困難に直面する場合があります。そこで、4月から、子ども発達支援室に所属する保健師や保育士、さらに、教育委員会の教員などが、保育所(園)や幼稚園、小学校を訪問して、子どもの特性を把握し、必要とされる対応などを話し合っています。

訪問を受けた錦生保育所の仲濱万紀子所長(上写真中央)は、「も

### どんな支援が必要なのか?

国の調査によると、学習、行動面で特別な支援を必要とする児童・生徒の割合は約6.3%(平成14年)。発達障害は決して特別な障害でないといえます。こうし

たと、平成17年には、「発達障害者支援法」が施行され、成長途中で生じる問題を「障害」ととらえ直し、支援の対象としたのです。

発達障害は、脳の機能的な問題などが原因となります。だから、本人の努力だけで解決できるというものではありません。

そのため、発達障害のある子どもが、自分らしく成長していくためには、周囲の人たちが早期にその子の特性をとらえ、適切な支援に結び付けていくことが重要です。また、どのような行動が問題を引き起こすかを、周りの人が知っておくことで、日常生活や学習面の困難さを軽減することもできるのです。

23ページへ続く

# 「発達障害」を知ってください

子どもが騒いだり、パニックを起こしたりしているとき、「なぜ親は叱らないんだ」といらだつ場合があるかもしれませんが、しかし、発達障害がある子どもの中には、少し時間を待ってあげることで、無理に叱るよりも早く混乱から抜け出せることもあります。家庭や地域、街中など周囲の人にこうした認識があるだけで、本人も家族も楽になれます。発達障害がある子どもやその家族が安心して地域社会で暮らしていくためにも、まずは、発達障害が多くの人に理解される必要があるのです。

ここでは、発達障害のある人を理解するために、主な発達障害の特徴を紹介します。



## 例えば、次のような特徴があります

### 自閉症

自閉症は、「言葉の発達の遅れ」「コミュニケーションの障害」「対人関係・社会性の障害」「パターン化した行動、こだわり」などの特徴をもつ障害で、3歳までには何らかの症状がみられます。

自閉症の人たちの中には、たくさんの人がいる所や大きな音、光などの刺激を苦手とする人が多くいます。そのような刺激による不快感を大きくしないような環境を整えることが大切です。



### Aちゃんの例

自閉症のAちゃんは、急に予定が変わったり、初めての場所に行ったりすると不安になり、動けなくなることがよくあります。そんなとき、周りの人が促すと、余計に不安が高まって突然大きな声を出してしまうことがあります。周りの人から、「どうしてそんなに不安になるのか分からないので、何をしたらよいか分からない」と言われてしまいます。でも、よく知っている場所では、一生懸命、活動に取り組むことができます。

### アスペルガー症候群

アスペルガー症候群は広い意味での「自閉症」に含まれる一つのタイプで、「コミュニケーションの障害」「対人関係・社会性の障害」「パターン化した行動、興味・関心のかたよりに」があります。自閉症のように、幼児期に言葉の発達の遅れがないため、障害があることが分かりにくいのですが、成長とともに不器用さがはっきりすることが特徴です。



### Bくんの例

友だちと話しているときに、自分のことばかり話してしまって、相手の人にはっきりと「もう終わりにしてください」と言われないと、止まらないことがよくあります。周りの人から「相手の気持ちが分からない自分勝手なわがままな子」と言われてしまいます。でも、大好きな電車のことになると専門家顔負けの知識をもって、友だちに感心されます。

### 注意欠陥多動性障害 (AD / HD)

注意欠陥多動性障害 (AD/HD) は、「集中できない(不注意)」「じっとしていられない(多動・多弁)」「考えるよりも先に動く(衝動的な行動)」などを特徴とする発達障害です。注意欠陥多動性障害の特徴は、通常7歳以前に現れます。多動や不注意といった様子が目立つのは小・中学生ごろです。思春期以降はこういった症状が目立たなくなるともいわれています。



### Cさんの例

AD/HDのCさんは大事な約束を忘れて、大切な物を置き忘れたりすることがよくあります。周囲の人にはあきれられ、「何回言っても忘れてしまう子」と言われてしまいます。でも、気配り名人で、困っている人がいればだれよりも早く気づいて手助けすることができます。

### 学習障害

学習障害 (LD) とは、全般的な知的発達に遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることに著しい困難を示すさまざまな状態をいいます。



### Dさんの例

文字や文章を正確に(意味をとらえて)読むことが困難なことがあります。また、本を読んでいるときに、どこを読んでいるのか分からなくなります。問題なく話せるのに、よく似た文字の区別ができなかったり、行を飛ばして読んだり、重複読みをしたりしてしまうのです。そこで、文字を指で指しながら読むようにしています。

<ご注意> 障害かどうかを判断することは、専門家でなければ難しいとされています。気になる問題があった場合に安易に発達障害だと判断することのないよう注意しなければなりません。

また、発達障害は、複数の障害が重なって現われることもありますし、

障害の程度や年齢(発達段階)、生活環境などによっても症状は違ってきます。発達障害は多様であることをご理解ください。

なお、2ページの記述は「政府広報オンライン」(<http://www.gov-online.go.jp/>)を参照しています。

# 「発達障害」の早期発見・支援のために



発達障害がある子どもに対して必要なのは、乳幼児期からの一貫した支援といわれています。そのためにも、まずは、早期発見が求められます。

そこで、市では平成19年度に「個別乳幼児特別支援事業」をスタートさせ、医療、保健、福祉、保育、教育など関係機関と連携し、発達障害の早期発見など総合的な支援に努めています。現在は、「(仮称)名張市子ども発達支援センター整備検討会」を立ち上げ、「小児発達支援外来」と連携し、相談や療育などを行っていく計画について検討を進めるなど、より専門的・総合的な支援につなげていくことを目指しています。

## 早期発見から一貫した支援へ

発達障害がある子どもは、親も周りの人たちも上手にかかわっていただくために、まずは、早期発見が求められます。

以前に比べ、健診で発達のアバランスに気付くことが増えていきます。ただ、発達障害なのかどうかは、1対1の面談では分からず、集団の中に入って始めて明らかにすることがあります。

そのため、1歳半健診や3歳児健診などの乳幼児健診で見つけられなかったら、保育所(園)、幼稚園、小学校などで発見できるように段階ごとに発見できる仕組みづくりが必要です。また、発達障害は、一人ひとりの特徴が異なるため、一貫して支援できる体制を整える必要があります。

## 関係機関の連携を

る体制は整っていませんでした。

そこで、市では、平成19年度に「個別乳幼児特別支援事業」を開始。関係機関が連携しあえる体制づくりを進めています。

例えば、1ページで紹介したように、子どもの発達状態などをさまざまな立場から確認しあっているほか、支援が必要と思われる子どもの発達状態を各機関が客観的に把握できるように、保育所(園)、幼稚園で「発達実態把握票」を作成。また、市、保育所(園)、幼稚園、教育委員会、福祉施設、医師会などが連携して「個別の支援計画」を作成し、保育所(園)、幼稚園での支援を行っています。

## より専門的・総合的な支援を

4月からは、関西医科大学の協力を得て、市立病院に「小児発達支援外来」を設置。かかりつけ医などで発達障害、あるいはその疑いがあると診断された場合には、より専門的な診察を受けられるようになります。また、4月に「子ども発達支援室」を設置し、関係機関との連携強化を図るとともに、6月からは、相談業務を開始します。

さらに、現在は、同室をさらに進化させた「(仮称)名張市子ども発達支援センター」の設置を検討しています。\*「小児発達支援外来」とも連携しながら相談業務や療育を実施するほか、医療・保健・福祉・保育・教育などの支援ネットワークの中心となる施設を想定して、より専門的・総合的な支援の充実を目指しています。

## 子育ての悩みを抱え込まず、相談に結び付けてほしい



小林 穂高 医師(関西医科大学)

市立病院 小児発達支援外来

発達障害のケースは実に多様です。子どもの置かれている環境によってもずいぶん違う。年齢によっても判断が分かります。

問題となるのは、子どもの特性や行動のパターンが、日常生活にどのくらい困難をもたらしているのかという点。もしも、その子の特性により、困難が大きく生じているのであれば、周囲の人が子どもとのかかわり方を見直していく必要がありますよね。困っているのは子ども自身であり、発達障害は早期発見が望ましいといえます。

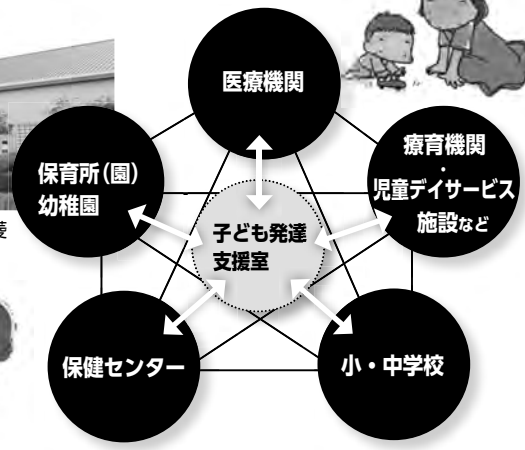
市立病院の「小児発達支援外来」では、保護者と一緒に、生活の中での困難さや子どもの問題行動の原因を考え、整理していきます。そして、必要に応じて慎重に発達障害かどうかの診断をします。障害を受け入れることは辛いことかもしれませんが、必要な支援を受け、また、周りからの理解を得ながら、改善に向けて取り組んでいくことが子どもにとっても必要なことです。

そして、何より大切なのが、子育ての悩みを一人で抱え込んでしまわないこと。さまざまな相談窓口がありますので、ぜひとも相談に結び付けてください。また、わたしとしても、子ども発達支援センターが整備されていく中で、早期発見や療育、相談を行っていくチームの一員として、医療の面からしっかりと連携していきたいと考えています。

## 4月から「子ども発達支援室」を設置し、関係機関との連携を強化しています



子ども発達支援室は、元田辺三菱製薬㈱研修所内に設置しています。

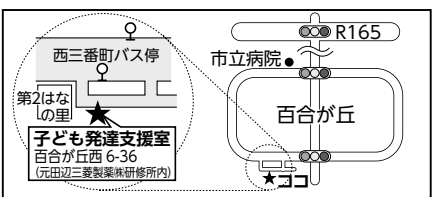


## 6月から子ども発達支援室で相談業務を開始します

「子どもの発達に心配なところがある」「どういった病院にかかればいいのか?」といった発達障害に関する心配やお悩みに保健師や保育士などが相談に応じます。

☎ 62-1088 FAX 62-1089

平日午前8時30分～午後5時15分 ※面談は要予約



※(仮称)名張市子ども発達支援センター」の整備計画の素案は、9月ごろ公表し、市民の皆さんのご意見をお寄せいただく予定です。

\*その他の相談窓口 ●保健センター(朝日町/☎63-6970) ●家庭児童相談室(ふれあい内/☎63-2515) ●伊賀児童相談所(県伊賀庁舎内/☎24-8060) ●学校教育室 ※小中学生対象(市役所3階/☎63-7882) ●三重県自閉症・発達障害支援センター「れんげ」(津市/☎059-238-0002) ●地域生活支援センターばれっと(西原町/☎67-0088)